

光受寺通信

NO.179

R5.12.1 発行
発行元 光受寺



かつて二十一世紀は「じじいの時代」ともいわれたが、多くの人たちは大きな期待を抱きながらも、同時に何かしら漠然とした不安を抱いていたことも事実であった。

ある学者は、地球レベルで取り組まなければならない自然破壊やエネルギー問題が深刻化してへることを予測はしていたが、戦争のない平和な時代がおとずれ、インターネット等通信技術の進展によって多大な経済的富を生み出す時代になるであらうとも言っていた。

大筋においては現実的に納得できる「じじい」ではあるが、改めて今の世界の状況を眺めてみるに、戦争は絶え間なく起り、何万人もの人が戦争の犠牲になっている。しかもさらに拡大しつつあることから言えば「じじい」予想ができなかった現実である。相互に戦争の大義名分を掲げ、殺戮を繰り返している。

「じじいの時代」はおろか、経済優先、経済優先といまだに声高に叫ばれている日本をどう思えばいいのか。「衣食足りて礼節を知る」とは中国春秋時代の思想家『管仲』の言葉ではあるが、この日本の現実を見る限りにおいては納得ができない。

人間の抱える煩惱は、そんなにあまい物ではない。もっともつと際限なく膨らみ続け、人をだまし、傷つけ、果ては殺人ともなり、国家レベルでは戦争ともなってしまうものなのだ。

「足るを知る」難しさは、永遠の課題なのかもしれない。「ボロは着ても心は錦」なんて誰も心からそうなりたいと思っていない。

「じじいの時代」はより遠のいてしまったようだ。

報恩講

十一月十日(日)

午前・午後 9時半よりお齋あり

法話 倉住 秀悟師

門信徒総会 15時〜

今年から来年に向けて

除夜の鐘・・・「口ナ」の関係で数年の間、行っていませんでした

除夜の鐘を本年より再開したいと思っております。

十一時半過ぎより行います。

修正会・・・年明け早々のお勤めです。除夜の鐘の後、行いたいのですが、本堂での催しもございますので、一月一日(午前8時より)正

信偈回廊奉讃で執り行います。ぜひご参加ください。



共に学んでみませんか？

光受寺学習会(同朋会)を始めておよそ二十年。

「開かれた寺づくり」を主眼として、現在も続けている活動です。仏事に関する様々な学習や正信偈の解説を通して親鸞聖人の教えを学び、時には真宗ゆかりの寺などを訪ねるなど、「門徒相互の交流も深めてまいりました。

現在は残念ながら参加者も様々な理由により、10名に満たない減少傾向にあります。真宗の教えを聞くことを通して、わが身を明らかにしてゆく歩みの場であります。是非お気軽にご参加ください。(来年1月から 第3土曜 2時〜)

仏法には、明日と申す事、あるまじく候。 『蓮如上人御一代記聞書』

今月の掲示板

「じじい」

始まり終わる

月日かな

「じじい」とは親鸞聖人の祥月命日の事です。信仰が篤い北陸地方では「じじい」を生活の中心に据えられ「お念仏生活」が営まれていたという事なのでしよう。私たちがお勤めする「報恩講」や、「おこり越し」も真宗門徒としてもっとも大切な仏事なのです。

お寺サロン

介護施設からも3名の方が
ご参加くださいました。

仏教小断等の後、約三十分程度でしたが、若坊守によるエレクトーン演奏が行われました。アニメ曲に仏教讃歌、昔懐かしい歌謡曲など数曲が披露されました。

ほとんどの曲は皆さんよくご存じの曲ばかりで、大きな声で曲に合わせて歌っておられました。

『南無阿弥陀仏の子守歌』という仏教讃歌は、ぜひ皆さんに覚えていただきたいと一節ごとに演奏して歌っていただいていたようです。(十一月はお休みです。次回については改めてお知らせします)。



青春時代を懐かしみながら艶やかに、仏教讃歌はしみじみと身に染むように…。充実した時間を提供できたかなと思っています。

南無阿弥陀仏の子守歌

1 なんまんだぶつ なんまんだぶつ

おじいちゃんのお念仏

おまえは一人じゃ ないんだよ

しんらんさまも いなもんよ

いまでも しみじみ 思い出す

おじいちゃんの子守歌

2 なんまんだぶつ なんまんだぶつ

おばあちゃんの お念仏

いただきます ありがとう

忘れず おおきくなつくれ

いまでも 心に 浮かび来る

おばあちゃんの子守歌

3 なんまんだぶつ なんまんだぶつ

ちいさな子どもと 手をあわす

数えきれない 人たちに

願われ 生まれた おまえだよ

いまでも たしかに 聴こえる

しんらんさまの子守歌

今では、この歌にどこか懐かしくさえ感じてしまいます。親から子へ、子から孫へと大切な思いや願いを繋いできたのです。かつては、「お念仏を聴く」ということが生活の中心にあったのです。



意外に知らない仏教用語

法名と戒名

戒名…本来は仏様の戒めを受け、仏門に入り、残る人生において仏教における戒律を守り通す約束として授けられるもの。

現在は、死後においては誰しも仏様の世界に導かれて成仏するという考えから、亡くなられた方に戒名を授ける習慣になっています。

法名…浄土真宗には戒律がないため、仏教に帰依する証としての「受戒」が存在しません。あくまでも仏法をよりどころとして生きて行く証として授けられるのです。

「帰敬式」(おかみそり)は「仏」「法」「僧」の**三宝**に帰依し、宗祖親鸞聖人が明らかにされた「教え」に自らの人生を問いたずね、真宗門徒として新たな人生を歩みだすことを誓う大切な儀式となっています。

※仏法僧(三宝)…「**仏**」真実に目覚められた仏。「**法**」仏の説かれた教え。「**僧**」その教えに生きる人たち

浄土真宗

光受寺には生前に法名をいただかれた方が何人もお見えになられます。